



動脈硬化検査

何をやる検査？

身長、体重を測定した後、ベッドに仰向けになって安静にしてください。その後、両腕と両足首の血圧を測定します。

何を見ているの？

両腕と両足首の血圧を測ることで、足首の血圧と、腕の血圧の値の差がどれくらいあるかを見ています。

何がわかるの？

通常は、腕に比べて足首の血圧はやや高くなります。しかし、動脈硬化が進み、血管が狭くなってくると流れが悪くなり、足首の血圧は腕の血圧より低くなることが多いです。

両腕と両足の血圧の差によって、動脈硬化の進行度合いがわかる検査となります。

どんな人におすすめ？

動脈硬化は、高齢・糖尿病・高血圧・肥満・喫煙などが原因とされるため、これらに当てはまる方は定期的に動脈硬化検査を受ける事をおすすめします。

● 動脈の硬さの指標（CAVI）

【～7.9】
正常

【8.0～8.9】
境界域

【9.0～】
動脈硬化疑い

結果が9.0を超えている場合、動脈硬化の可能性が 있습니다。境界域とは、動脈が硬くなってきている範囲のため、注意が必要です。

● 下肢動脈の狭窄の指標（ABI）

【～0.9】
狭窄疑い

【0.91～0.99】
境界域

【1.0～1.4】
正常

【1.41～】
動脈硬化疑い

値が低くなるにつれて、動脈が狭くなる狭窄や、動脈が詰まる閉塞といわれる病態の可能性が高くなります。境界域とは、動脈が狭くなりかけているという範囲のため、注意が必要です。

対して、値が高い場合には、動脈が石灰化などにより硬くなっている指標となります。

検査の結果は、医学的な診断を示すわけではありません。検査結果が気になる方は、検査結果をお持ちの上、受診をしてください。